

## 参考資料3

1-7-1 新体育館とウェルネスパークをつなぐ「(仮称)ウェルネスプラザ」のランドスケープデザイン  
 様々な世代の人々が、くつろぎと交流の図れる市民のためのプラザとして設えます。

プラザは新体育館のエントランスホールを含めた回遊性のある5つのエリアにゾーニングし、異なる性格を持つ島(緑地、広場)と園路により多様なアクティビティを展開します。

また、マルシェやフリーマーケットなどのイベント時には、パフォーマンスのできる広場やキッチンカーが進入できる車路、エントランスホールと一体的な利用など、たくさんの市民の交流を促すことのできるプラザとします。

### 1-7-1-1 ランドスケープゾーニング

「(仮称)ウェルネスプラザ」は「新体育館」、「ウェルネスパーク」、「ハルニレの庭」との関係性を踏まえ異なる性格の5つのエリアにゾーニングし、それぞれの施設をつなぐ空間とします。

**フロントエリア**：新体育館アプローチを含むエリア。市民が入り出る広場の顔として、駐車場に向かいベンチを設置し待ち合わせのできる空間とします。

**テラスエリア**：新体育館のエントランスホールの営みが屋外へと広がるエリア。談話や勉強、読書など様々な活動が内外で繋がるよう、テーブルやベンチなどを設え交流を促します。

**ストレッチエリア**：屋内のラウンジやボルダリング室から屋外へとつながる運動スペース。簡単なストレッチができるファニチャーの設置を検討します。

**レクリエーションエリア**：エリア全体にちりばめられた大小様々なかたちの緑地と広場。それぞれのエリアに対応したファニチャーを設置し、多様なアクティビティを生み出します。全体を回遊できる約360mのループは緑のマウンドとステップで繋がり回遊性を創出します。

**イベント広場エリア**：広場を囲む階段状のベンチと緑のマウンドが観客席になり、センターステージでのパフォーマンスを楽しめるミニ劇場となります。車も寄りつけできる通路を確保し、様々なイベントに対応できるよう計画します。

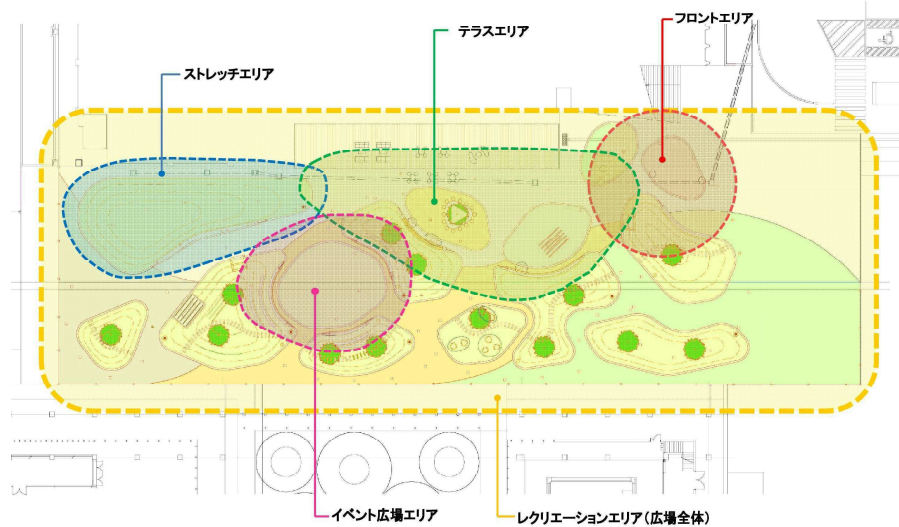


図7-1 ランドスケープゾーニング案

### 1-7-1-2 「(仮称)ウェルネスプラザ」仕上げ計画

「(仮称)ウェルネスプラザ」の仕上げはメンテナンス性が良く、カラーバリエーションの豊富なインターロッキングブロックなどを主体に計画します。新体育館のラウンジから連続した良好な景観を形成し、良質でやすらぎを感じる広場を整備します。

植栽は、ハルニレの庭から連続した空間を形成するものとします。冬季はマウンド(築山)に積もる雪が、普段とは違う緩やかな雪山の景色を創出する計画としました。

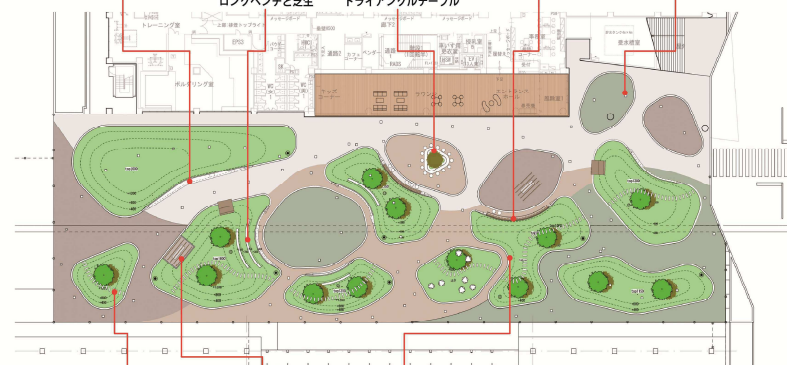


図7-2 (仮称)ウェルネスプラザ平面計画案とファニチャーの例

### 1-7-1-3 民間活力の活用 (Park-PFI)

「(仮称)ウェルネスプラザ」の整備については、民間活力を活用することにより、本エリアの整備・管理にかかる財政負担を軽減するほか、公園のサービスレベルの向上が期待できます。

民間事業者は収益施設(カフェなどの便益施設)に合わせ、広場等を一体的に整備することが可能となり、民間の創意工夫によるコスト削減、収益の向上にもつながる質の高い空間を創出できます。

このことから、都市公園法に基づく公募設置管理制度(Park-PFI)による事業を活用します。